

J-STAGE³

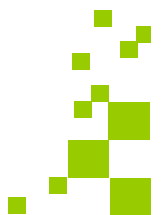
独立行政法人 科学技術振興機構
知識基盤情報部 電子ジャーナル担当



平成22年12月15日



J-STAGE2の課題



J-STAGE2の課題1

■外的要因

| | | |
|---|-------------|---|
| <p>(海外)商業出版社の隆盛 ↓ 海外出版社への流出問題</p> | 買収、統合による寡占化 | <ul style="list-style-type: none">■近年、海外の学術雑誌は、電子化を急速に推し進めている。この結果、電子化に投資できない中小の出版社が生き残れないため、合従連衡が進んできている。■現在、主要な商業出版社として地位を確立しているのは、エルゼビア社 (ScienceDirect)、シュプリンガー社 (SpringerLINK)、ワイリー社 (Wiley Interscience) 等である。■また、アグリゲーターと呼ばれる、仲介業者では、ProQuest, EBSCOHostなどがある。 |
| | 最新化された技術 | <ul style="list-style-type: none">■資金が潤沢な商業出版社を中心として、最新のWeb技術を活用したサービスを多く展開し、これが支持されるひとつの理由となっている。■例えば、Ajaxを用いた直感的なインターフェース、Webページやブログなどに検索窓を提供するWidget、RSSフィードを用いた、論文投稿のアラートなどがある。 |
| | 多様で柔軟な提供形態 | <ul style="list-style-type: none">■電子ジャーナルにおいても、元々はジャーナル単位で課金されるという紙媒体時代の慣習が残っていたが、電子化され検索性が向上したことによって、特定の論文だけを読みたいというニーズが高まってきた。■このことから、多くの電子ジャーナルサイトが論文単位の購入や複数の電子ジャーナルの包括利用契約など、課金について柔軟に対応するようになってきている。 |

J-STAGE2の課題2

■外部要因

| | |
|---|--|
| <p>人文社会科学分野の 電子化の遅れ</p> | <ul style="list-style-type: none">■社会科学分野などを中心に電子ジャーナル化が完了しておらず、自営でジャーナル発行をしている学会が数多くある。■一方で、出版社に委託しないで電子ジャーナル事業を行っている学会も多くあり、これらの取り込みが必要である。 |
| <p>日本の学術出版産業の 電子化対応の遅れ</p> <p>↓</p> <p>データ フォーマットの 特殊性</p> | <ul style="list-style-type: none">■印刷会社、ITベンダーを含む学術出版産業の底上げによるメタデータ整備（標準化など）や制作コスト効率の向上が必要であり、将来的には、国際標準対応、世界に先駆けた取り組みのサポートも重要となる。 |
| <p>オープンアクセス運動 の台頭</p> | <ul style="list-style-type: none">■高額な学術雑誌は電子化以前にも発行されていたが、電子化の投資を上乗せする形で、電子ジャーナルの購読料金が高騰したことから、学術情報を寡占的に支配する商業出版社から主導的立場を取り戻す動きが出てきている。■オープンアクセス運動は、購読者の支払いに頼る従来の学術雑誌刊行モデルとは異なる流通を行おうとするものであり、セルフアーカイビングは流通モデルはそのままに、補完的に研究者自身がWebサイト等で公開するという方法を指す。 |

J-STAGE2の課題

- J-STAGE/Journal@rchive別システムであることによる弊害
 - 検索・閲覧インタフェース
 - 機能拡張コスト
- 機能の陳腐化
 - モバイル対応、電子ブック対応、多彩なユーザインタフェースへの対応遅れ
- 特殊なデータフォーマットによる流通性制約
 - 様々な二次データ利用機関からの要望に充分応えられていない
- データ作成、購読管理を始めとする学協会側負担
 - 使いづらいインタフェース
- 拡張性のなさ
 - 拡張性に欠けるシステム構造

J-STAGE3のインパクト



見やすい画面・ユーザインタフェース

■ジャーナルトップ画面

The screenshot displays the homepage of the Journal of Information Processing and Management. The page features a header with the journal title and logo, a navigation menu, and a search bar. The main content area is divided into several sections. A red circle highlights the '最も読まれた記事' (Most Read Articles) section, which lists several articles with their titles, authors, and page numbers. The articles listed are:

- インバネーションと情報管理
坪川 通樹, 保田 真哉, 比嘉 冬樹, 菅 賢一郎
Vol.53(2010) No.11 pp. 695-700
127pp/月
- 統合用語の標準化と組込型オートロジックの活用
大江 和徳
Vol.53(2010) No.11 pp. 701-709
116pp/月
- 農業研究情報の検索も支援する日本語版ジャーナルの構築とその活用
竹崎 高かほ
Vol.53(2010) No.11 pp. 710-717
113pp/月
- 国立国会図書館のデジタル化とその現状と課題について
日置 邦之
Vol.53(2010) No.11 pp. 718-729
106pp/月
- インフォバってなんだ？ 私の仕事、学ぶ、そして遊ぶ
上野 佳志
Vol.53(2010) No.11 pp. 730-731
101pp/月

The '最も読まれた記事' section is highlighted with a red circle, indicating its importance in the user interface design.

『最も読まれた記事』を部品として、配置

J-STAGEとアーカイブの統合による閲覧・検索性向上

■ジャーナルトップ画面

The screenshot displays the J-STAGE journal homepage for 'Information Management' (情報管理). The page is organized into several sections:

- Header:** Includes the journal title '情報管理 Journal of Information Processing and Management', the JST logo (科学技術振興機構), and ISSN information (ONLINE ISSN: 1234-5678, PRINT ISSN: 1234-5678).
- Navigation:** A green bar contains links for 'ホーム', '目次', '検索', 'お問い合わせ', 'このジャーナルについて', and '発行履歴'.
- Left Sidebar:** A vertical list of volumes is shown, with 'Vol.53(2010) No.11' highlighted by a red circle. Other volumes listed include No.10, No.9, No.8, No.7, No.6, No.5, No.4, No.3, No.2, and No.1.
- Main Content Area:** Displays the selected issue '情報管理 Vol.53(2010) No.11'. It includes a search bar, a list of articles, and a detailed view of an article titled 'インフォメーションと情報管理' (Information Management and Information Management) by 仲川 康博, 菊田 真昭, 佐藤 幸也, and 菅 賢一. The article details include a cover image, a brief description, and options for citation and download.
- Right Sidebar:** Contains information such as 'Impact Factor 1.2', 'アクセス 2010年7月30日', '120pp/回 360pp/月', and 'このジャーナルについて'.

J-STAGEとアーカイブを一覧表示

論文も対象とした総合的な評価指標の確立

- J-STAGE3に搭載するジャーナルおよび論文そのものの評価
- さまざまな要素を含む総合的な評価指標の設定・実装
- アクセス数、ダウンロード数、掲載間隔の安定性、査読期間、といった指標データをシステムで収集し解析し、今後の改善や論文レベルの底上げ等に寄与させる

| 管理指標(例) | 指標の説明 | 期待される効果(例) |
|---------------------|--|----------------------------|
| 論文アクセス数 ・ダウンロード数 | 論文・ジャーナルの利用数 最も一般的な評価指標である (有料・無料の切り口や、年間の数値を含む) | 当該研究の重要性等を評価できる |
| 掲載間隔 | ジャーナルの実際の公開間隔 文献データベースなどにおいてジャーナルの評価時に重視される | ジャーナル発行の健全性を評価できる(出版水準の維持) |
| 査読期間 | 原稿の査読に要する期間 | 別の観点で論文を評価できる可能性 |
| 被引用数 | ジャーナル、論文の相対的影響度 | ジャーナル、論文を相対的に評価 |

J-STAGE2からJ-STAGE3へ



既存提供サービスの整理

- 利用状況や事業としての優先度を鑑み、以下の機能について選択と集中の観点で見直しを行う。
- アーカイブはJ-STAGEに統合(新規誌の追加アーカイブは無いが、公開機能を統合)していく。

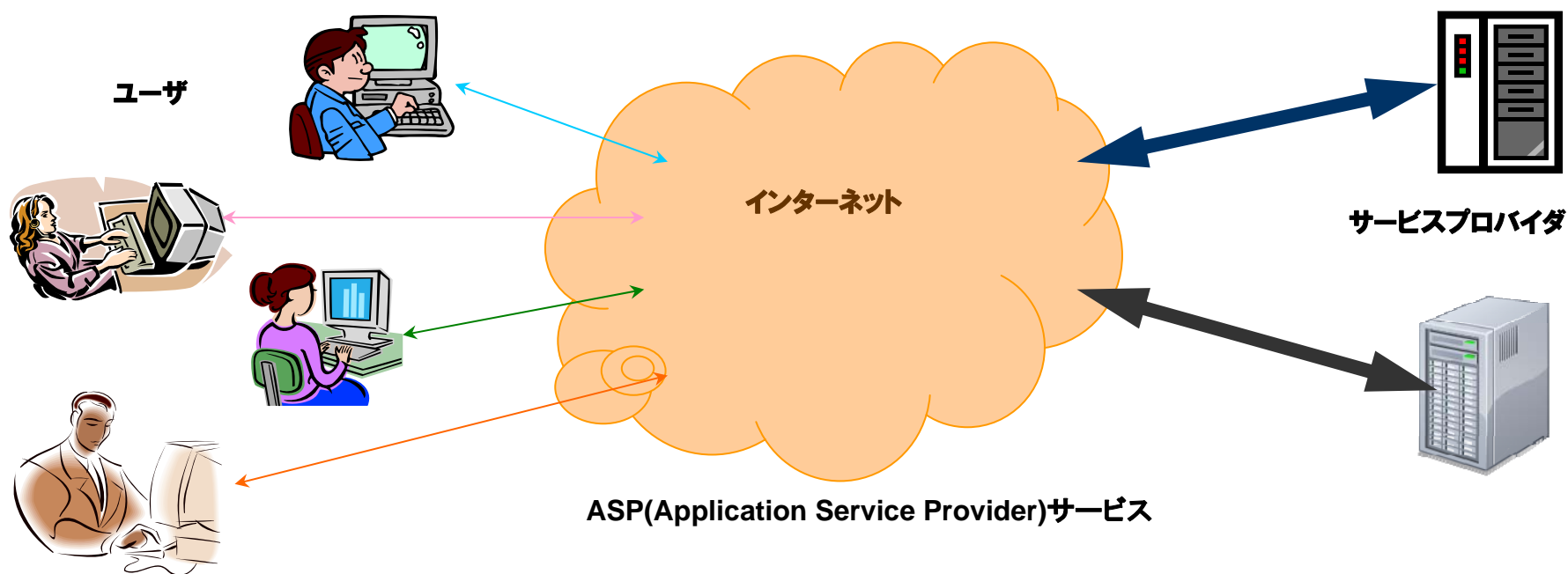
ジャーナルに注力する方向

| 整理対象既存機能 | 方向性 | J-STAGE3リリース時 |
|-----------|---|------------------------------------|
| ジャーナル | 継続して登載(一定水準を満たすもの) | 公開基準の整備 |
| NII学会発表DB | 新規データ登録は停止済み | 現行データの公開機能はJ-STAGE3以外のサービスへの移行予定 |
| 大会演題登録 | アドバイザー委員会よりジャーナルに注力する方針(新規は停止中) | H24.3末にてサービス終了 |
| 報告書公開 | アドバイザー委員会よりジャーナルに注力する方針(新規は停止中) | H24.3末にてサービス終了 →一部、ジャーナル・予稿集へ移行 |
| JST報告書公開 | アドバイザー委員会よりジャーナルに注力する方針 | 別サービスへ移行予定 |
| 予稿集・要旨集公開 | 継続登載。新規はジャーナル相当の予稿集、例えば審査・査読が行われ、且つ定期的に発行されている予稿集を対象として 受付再開 | 登載基準は別途検討中 |

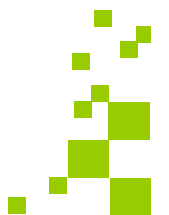

独自開発 (J-STAGE2) →→世界標準パッケージ

■ Editorial Manager相当、ScholarOne Manuscripts相当

- 選択可能。ただし決定後の乗り換えは原則不可。



J-STAGE3データフォーマット



■XML化による標準化

- メリット説明(システムの高機能化、検索精度向上、データの汎用性、再利用性向上)

■J-STAGEとJournal@rchiveの統合

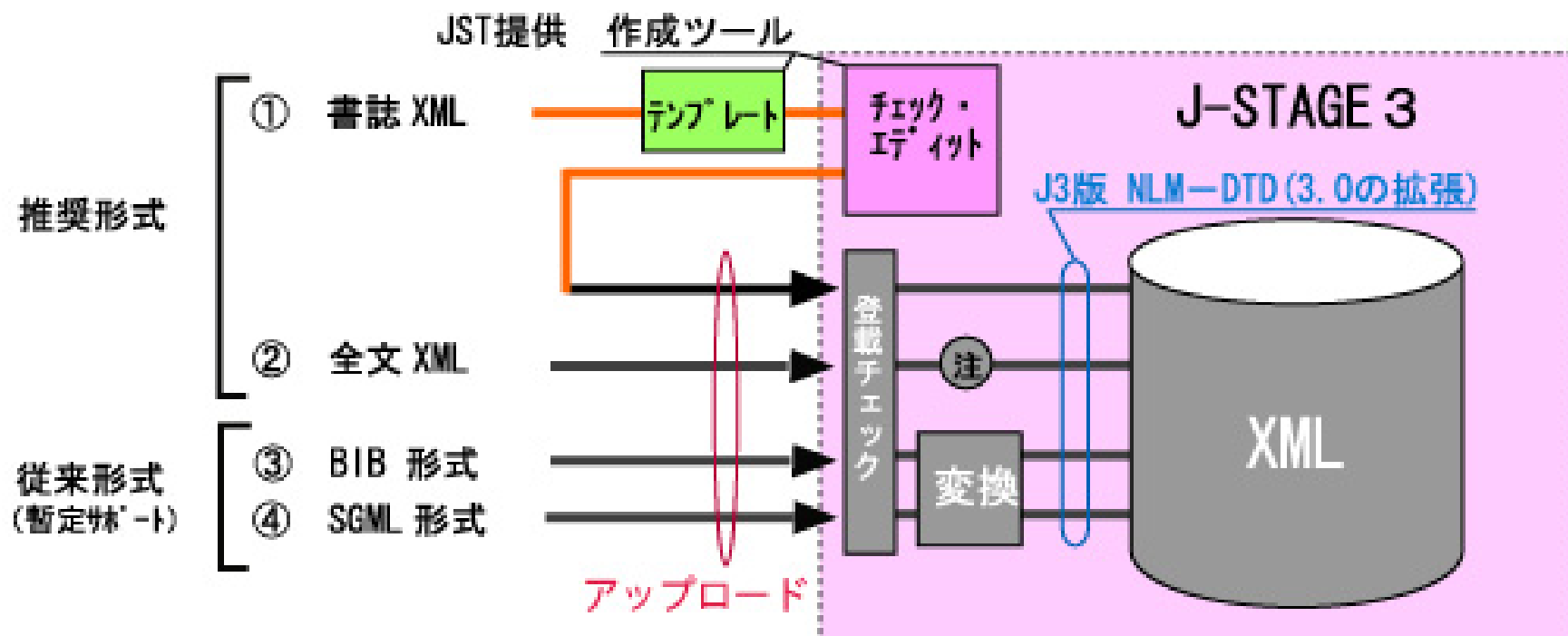
■より使いやすいシステムへ

■投稿システムのASP化

J-STAGE3データフォーマット(ジャーナル)

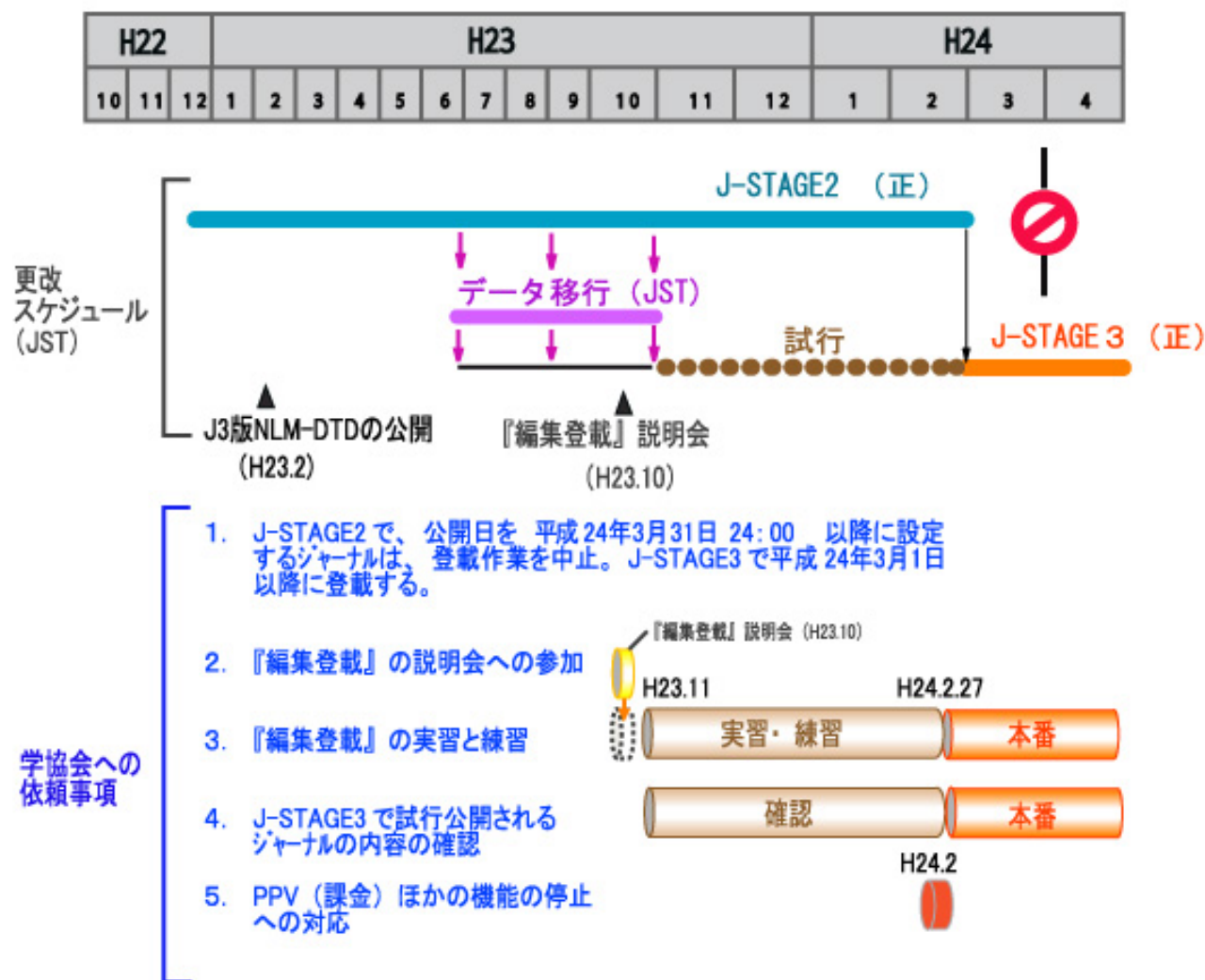
- 書誌のみ、全文のオプションあり
- NLM-DTD XML(ver3.0準拠予定)
 - NLM-DTDは、HighWire, ACS等にて導入
- BIB及びSGMLは暫定的に継続サポート
 - 急に現在のデータフォーマットが使えなくなるわけではありません
- データ作成支援ツールを提供予定
 - データ作成が容易に安価に
- データフォーマット説明会を来年2月に開催予定

J-STAGE3ジャーナル掲載パターン



注 NLM-DTDのバージョンアップ時には、
J3版 NLM-DTD (3.0の拡張) に変換して格納

J-STAGE3編集登載・公開の移行スケジュール



※調達スケジュールの変更により、移行スケジュールについては大きく変更となる可能性があります。予めご了承くださいませ。(2011.1.15)

J-STAGE3データフォーマット(予稿集・要旨集)

- **書誌のみ、全文のオプションあり**
- **NLM-DTD XML (ver3.0準拠予定)**
- **現行のBIB2.1は暫定的に継続サポート**
- **データフォーマット説明会を2月に開催予定**

J-STAGE J-STAGE

J-STAGE

J-STAGE

J-STAGE

J-STAGE

ご静聴ありがとうございました